

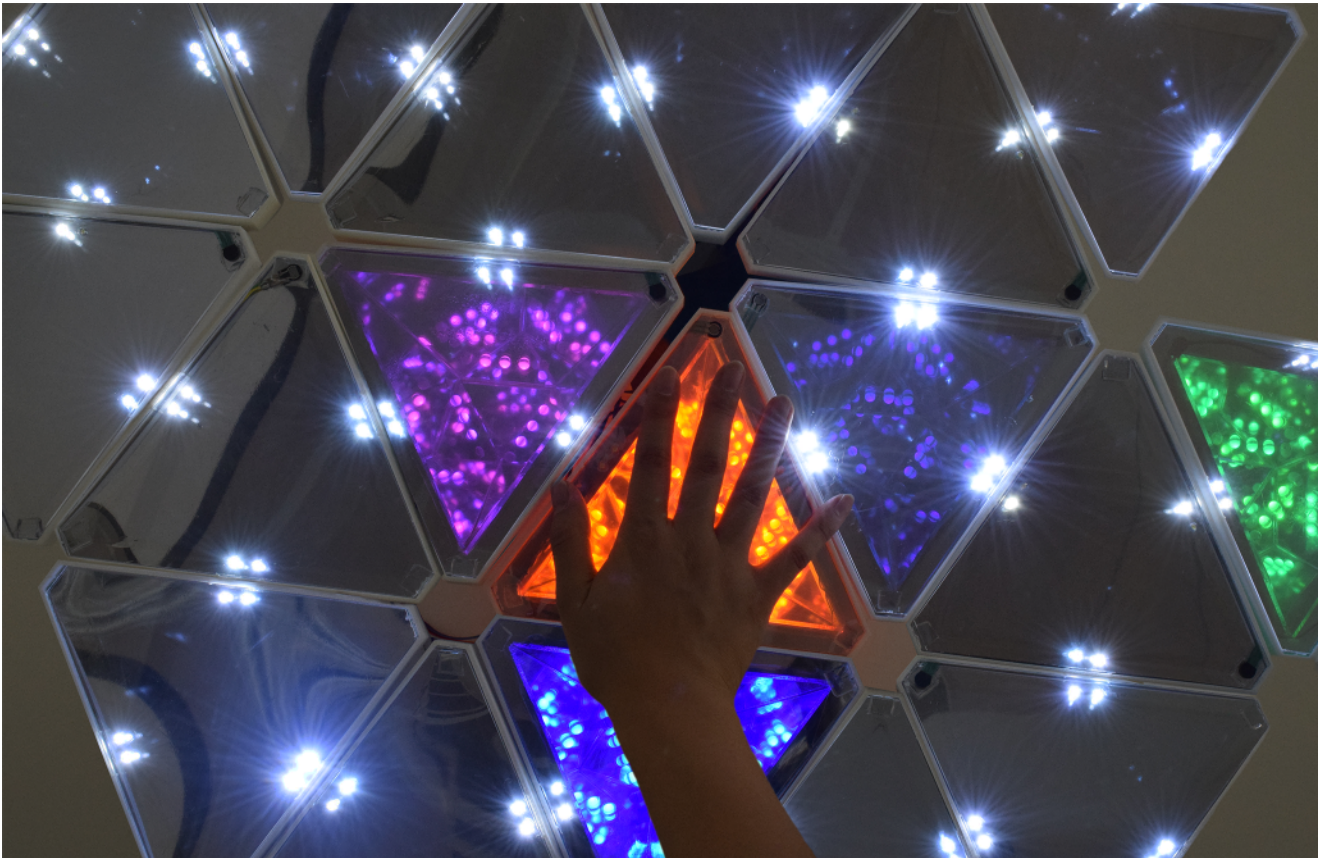
---

## 2.5次元空間

空間の「広がり」を体験するインタラクティブアート

吉田香織  
札幌市立大学デザイン学部コンテンツデザインコース  
1411084@st.scu.ac.jp

松永康佑（指導教員）  
札幌市立大学デザイン学部人間情報デザインコース講師  
k.matsunaga@scu.ac.jp



インスタレーション、幅 900mm× 奥行 200mm× 高さ 550mm、2017 年

---

本作品は、「広がり」を体験してもらうことをコンセプトとして作成したインスタレーション作品である。通常の状態では平面的であるが、体験者が装置と接触することによって三次元的な空間の広がりを感じられる。

体験者の接触による「広がり」を実現するために、マジックミラーの持つ、周囲がより明るい方が鏡面になり、より暗い方がガラス面になる性質を利用している。本作品は複数のユニットからなるが、基本構造は全て同様である。ユニット表面の鏡面はマジックミラーであり、表面に圧力をかけることで内部のLEDが点灯し、鏡面とガラス面が反転する。装置内部には四枚の鏡が配置されており、マジックミラーを含め五枚の鏡によって光が反射し合うため、LEDの光によって無限長に延長されたような空間が現れる。

通常時の、圧力を検知していない状態の装置表面は、内部

のLEDが点灯していないため三角形をした鏡としてのみ認識できる。しかし体験者が装置に触れることによって、表面の鏡面を超えて全く別の空間が提示されることになる。この空間には外部の光は入ってこず、内部に点灯したLEDの光のみが空間を構成している。これによって、体験者は自らが接触した瞬間から、別の空間が広がったような体験を与えられる。

更にユニット同士は連動しており、体験者が触れる力の強弱によっては周囲のユニットも点灯する。手のひらに収まる大きさの一つの装置から、光と空間が伝播していく感覚を得ることができる。